

「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：総合型選抜 1次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感度が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。1次選考の集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを的確に表現できているか、また話し合いに臨む姿勢などを評価している。</p> <p>2023年度総合型選抜1次選考における集団討論では、事前に受験生に同一の課題を示した。課題の内容は、「北九州市立大学地域創生学群で新設すべき実習をグループで一つ提案してください」であった。</p> <p>今回の評価のポイントは、受験生が現在の日本社会が直面する課題を事前にできる限り、広く・深く調査することを期待している点が挙げられる。また、集団討論中においては、受験生が事前調査でまとめた意見・アイデアを、他者との積極的な議論を通じて深めつつ、議論のとりまとめに協働して貢献することができるか、ということを見定めるところも重要な点である。</p> <p>言い換えれば、1次選考全体を通して、入学後、「地域創生」の担い手としての使命感を保持しつつ、地域の方々と有意義な協働を進めていくための基本的なコミュニケーション能力を有しているか、という点を重要な評価基準とした。</p>

「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：総合型選抜 2次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：小論文・個別面接）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。2次選考の小論文では、地域創生にも関連する社会課題に関する文章を読みそれを論理的にまとめる思考力を身につけているかを確認した。また、個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。</p> <p>■小論文について</p> <p>今回の小論文試験の出題文は、地域創生に関連すると考えられる文章の中から、次の2点を念頭に置きながら、選定した。1点目は、地域創生においては地域社会が直面する課題を的確にとらえる力が必要であると考えることから、課題の構造を読み解くヒントを得られるような文章であること、2点目は、受験生でも読み取れる比較的平易な文章であることである。以上の2点を鑑み、今回は村上靖彦（2022）「ケアから社会を組み立てる」『世界』の該当箇所を出題文として選定した。</p> <p>設問では、問題文に書かれている内容をまとめる作業を志願者に求めた。大阪市西成区の事例をもとに、問題文で示されているコミュニティ（小さな社会）の特徴を的確に捉えつつ、一人一人の声が聞こえる小さな社会と大きな制度の関係性を述べる必要がある。これらを論理的につなぎ合わせ、わかりやすく表現した答案を高評価とした。</p> <p>■個別面接について</p> <p>これまで主体的に活動してきたことをわかりやすく説明できるか、地域創生学群入学への強い意志を有しているかが評価ポイントの一つであった。また、面接官との質疑応答において、質問の意図を理解した上で自らの考えを適切に表現できているかを評価とした。</p>